

る。外科医師少数県での特性を生かし自由度の高いプログラムを展開し、豊富な手術が経験でき、積極的に執刀医としても修練できるようなプログラムを展開する。また、希望者にはサブスペシャリティ領域を見据えて早期に必須手術経験数を終了させ、高次の資格へと連動していけるプログラムとする。

今後はライフイベントや海外留学などで一時的にプログラムを中断しなければならない場合への対応について、専門医機構からの指導のもとでカリキュラム制のような仕組みも検討する。

これまで新潟大学外科学教室は「3科1つ屋根の下に」という理念の下、教育指導を行ってきた。今後とも3科で協力体制をとりながら、教育指導にあたっていきたいと考えている。

文 献

1) 厚生労働省医政局医事課：第2回医道審議会医

師分科会医師臨床研修部会 参考資料. <https://www.mhlw.go.jp/content/10803000/000525287.pdf>, 2019.

2) 厚生労働省：平成28年(2016年)医師・歯科医師・薬剤師調査の概況. https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/ishi/16/dl/kekka_1.pdf, 2016.

3) 厚生労働省医政局医事課：第7回医療従事者の需給に関する検討会 第30回医師需給分科会別添資料3 都道府県別診療科ごとの将来必要な医師数の見通し(暫定) <https://www.mhlw.go.jp/content/10801000/000491598.pdf>, 2019.

4) 北川雄光：新専門医制度の現状と今後の課題. 日外会誌 118: 680-682, 2017.

5) 北郷 実, 北川雄光：外科新専門医制度の意義と展望. 臨外 74: 98-101, 2019.

6) 北川雄光：専門医制度のあるべきグランドデザイン構築と外科医の将来像. 日外会誌 119: 534-536, 2018.

3 眼科をはじめとした専門研修プログラムについて

松岡 尚気

新潟大学医歯学総合研究科 視覚病態学分野

むらかみ松岡眼科

The Features in New Medical Specialty Training programs of Each Clinical Department : Ophthalmology, Otolaryngology, Urology and Dermatology

Naoki MATSUOKA

Department of Ophthalmology, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences

キーワード：眼科，耳鼻科，泌尿器科，皮膚科，専門研修プログラム

Reprint requests to: Naoki MATSUOKA
Department of Ophthalmology,
Niigata University Graduate School of
Medical and Dental Sciences,
1-757 Asahimachi-dori, Chuo-ku,
Niigata 951-8510, Japan.

別刷請求先：〒951-8510 新潟市中央区旭町通1-757
新潟大学医歯学総合研究科 視覚病態学分野
松岡尚気

日本専門医機構による新専門医制度の開始から2年目を迎える現在、新制度をめぐって様々な課題が浮き彫りになってきている。今回のシンポジウムでは眼科を中心に、耳鼻科、皮膚科、泌尿器科の各専門科の協力を得て、それぞれの課題と取り組みを示していただくことができたので、お互いの比較を交え、ここに提示する。

専門医制度においては、これまで眼科では日本眼科学会が主導、運営してきたが、耳鼻科、皮膚科、泌尿器科もほぼ同様に一つの大きな学会が一つの専門科をカバーする形式を採用していた。新制度にあっても全四科共に旧制度を当該学会からほぼそのまま引き継ぐ形となったため、現在、新潟大学の各四科における研修プログラム内容はそれまでと大きな変更もトラブルもなく、継続的な研修を行うことができている。しかしながら研修プログラムに大きく影響する課題の一つに、近年新たに採用された新潟県の“地域枠”制度の導入がある。まず専門選択後の研修開始当初二年間は新潟県唯一の基幹施設である新潟大学での勤務が不可能であることから、制度上、専門医試験の受験時期が一般枠の医師と比較して眼科では一年、また泌尿器では二年遅れる可能性がある、という点である。耳鼻科、皮膚科では時期の遅延はないようであるが、皮膚科では“地域枠”入局者がこれまで毎年女性であり、限定された研修施設に学年の若い女性専攻医が集中するために指導体制が困難になってきている問題が生じつつある。

また、新専門医制度下における新たな課題として挙げられるのが、各施設、各都道府県における定員のシーリングで、そもそもいわゆるマイナー科は新潟大学では臨床研修を必修で回らないために科と学生が接する機会が少なく、将来の専攻科として選択されにくい状況で、ただでさえ新潟県内で研修を行う医師数が限られている中ではシーリングを超過するほどの新人を獲得することはきわめて厳しい現状となっている。その中で専攻医の選択の傾向には、科毎に異なる様子がみられることがわかった。まず眼科では、毎年専攻者数がここ五年で70～100名程度増加したが、その大半は五大都市圏と呼ばれる東京、神奈川、大阪、

愛知、福岡をはじめとする都会圏とその周辺におけるものであり、それ以外の新潟のような地方都市では横ばいでしかない。都会圏では一次申請時にすでにシーリングに達し、個別に他県他施設での研修に12名程度が異動となった経緯があるが、地方に行くようならば、ということで6名程度は眼科専攻自体をキャンセルし、他科に回ったという事例が生じた。皮膚科でも同五大都市圏でシーリングが行われ、超過分は委員会が各施設と調整し、シーリング内におさえたそうである。泌尿器科では全体の専攻医数は増加したが、眼科とは異なり、都会圏ではその数は横ばいで割合とすればむしろ減少、東日本では微増程度なのに対し、西日本では50%程度増加し、西高東低の傾向となっている。耳鼻科では都会圏以外では北陸、四国が人気となっている特色に加えて、教授同士の調整でシーリング地域から地方都市へ異動した事例もあったそうである。

新潟の今後二十年をみても、例えば眼科においては現在の医師数と日本眼科学会評議委員会で示された年間必要養成医師数の関係から、毎年4～10名が専攻しない場合、確実に不足し続ける予測となっており、医師の偏在は非常に重要な問題となっている。そこで各科における勧誘業務がさらに重要となる次第ではあるが、勧誘係を設置して個別に連絡を取ったり、学会参加などに誘ったりすることで興味をもたせるような活動はほぼどの科でも当然に行っている。新潟大学眼科では独自の企画として「新潟眼科セミナー」という名称の眼科検査機器体験、豚眼を用いた手術体験、若手先生の体験談などの聴講をセットにした機会を設けて、これまで11回継続し、好評を得ている。また日本眼科学会の取り組みとしては春から夏にかけて「眼科スプリング(サマー)キャンプ」と銘打った、全国から眼科に興味を持つ学生、研修医を一堂に集めて当科の眼科セミナーをスケールアップしたような企画を行っている。他科で積極的な取り組みを行っているのは、日本耳鼻科学会で、卒前・卒後教育委員会という組織を設置し、国内の大きな耳鼻科学会では学生、臨床研修医の参加費やハンズオンセミナー(手術体験)の費用

は無料とし、各医局などに入局後その効果の検証や入局のきっかけなどに関するアンケートを行って、それらの結果を各施設にフィードバックするなどしている。いずれにしろ、現在の新専門医制度は始まったばかりで、今後の見通しも不透明なところが大きい。特に今回とりあげた専門科では、このような各科学会としての主導的かつ主体的な勧誘への取り組みが不可欠なものになるであろう。

2020年度募集の“地域枠”入局者はシーリン

グの対象外となったようであるが、課題となる医師の偏在に合わせ、都会圏でのシーリング超過対象者の地方への受け入れを、各個別施設同士ではなく、専門医機構なり、各専門学会がうまく調整できるようなシステムを構築することが喫緊の課題として挙げられる。また何よりも新潟大学各科と新潟県が一丸となって、新潟県内での研修を選択する医師母集団の拡大に努めることがもっとも大切であると考えられた。

4 新しい専門医制度に関するシンポジウム ～始まって2年、新しい専門医制度を巡る課題～ 大学からのサポート・・・医師キャリア支援センター

藤澤 純一

新潟大学医歯学総合病院 医師キャリア支援センター

A New Medical Specialist System ~ Support from the Niigata University: The Product of Carrier Support Center for Resident, Niigata University Medical and Dental Hospital

Junichi FUJISAWA

Carrier Support Center for Resident, Niigata University Medical and Dental Hospital

要 旨

医師キャリア支援センターは、新潟大学が平成20年度文部科学省公募の大学病院連携型高度医療人養成推進事業へ秋田大学・琉球大学と共同申請し選定された「NAR大学・地域連携「+α専門医」の養成」プログラムの実施を目的に、新潟大学医歯学総合病院内に組織された。

現在は、新潟大学医歯学総合病院での専門研修のコーディネートを行っており、

- 専門研修プログラム連絡会議の開催
- 新潟大学専門研修プログラムの刊行・Web公開
- Web登録システムを用いた専攻医の履歴・業績登録
- 専攻医配置状況調査
- 連携テレビシステム
- 内科専門研修プログラムのコーディネート
- 新潟県と連携：

Reprint requests to: Junichi FUJISAWA
Carrier Support Center for Resident,
Niigata University Medical and Dental Hospital,
1-754 Asahimachi-dori Chuo-ku,
Niigata 951-8520, Japan.

別刷請求先：〒951-8520 新潟市中央区旭町通1-754
新潟大学医歯学総合病院
医師キャリア支援センター

藤澤 純一